

THE

北里研究所

Kitasato

AUTUMN 2006

No.52

題字：北里柴三郎先生の直筆



森の中 I  
塚田 裕

第5回人間讃歌大賞展 佳作賞  
(北里研究所大村美術品コレクション)

(30号S)

## CONTENTS

DNDiと北里研究所の挑戦	2	身近にある漢方薬 X	10
第9回ローベルト・コッホ研究所-北里研究所合同シンポジウム	4	EAP相談室Ⅳ 私の気持ちの伝え方	11
大村智北里研究所所長の		講演 笑いは最高の抗がん剤	12
中国工学アカデミー-外国人会員認証式に随行して	5	ふれあい談話室	14
北里柴三郎資料館	6	医者ひとりごと	16
KMC病院 ほほえみ学級	8	和菓子と年中行事 三	17
北里研究所病院 生活習慣病予防教室開催	9	トピックス	18

# 北里柴三郎 資料館 52

北里柴三郎記念室から

北里研究所 名誉部長  
中瀬安清

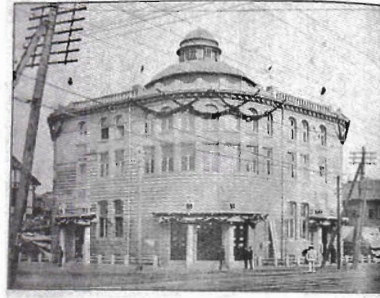
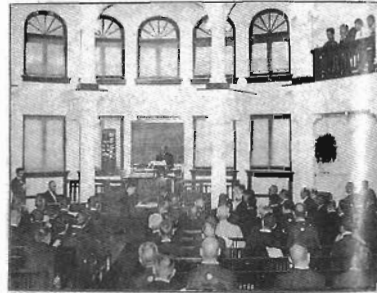


写真1 大日本私立衛生会の旧会堂と新会堂

当初の京橋区榎屋町（現銀座4丁目和光の裏通り）の仮事務所から翌1884年神田区錦町1丁目を経て、1886年京橋区宗十郎町（現銀座7丁目資生堂裏付近）に移り（左）、北里副会頭時代の1911年6月25日内務省に近接する大手町1丁目に新会堂（中）が竣工。設計はドイツ人ヤン・レツルノ（チェコ出身）、総工費66,854円98銭。600席の豪華な講堂（右）は、北里研究所に講堂が出来るまで講習会や講演会にも活用された。左側の座長席は北里先生



## 北里柴三郎博士と大日本私立衛生会

既述の如く北里先生は、1878（明治11）年4月医学部本科へ進む頃「医道論」の中で、「治病吾猶人也必也無病乎」と述べ、最後に「保育蒼生吾所期……なる自作の詩を詠んで、人民を保育し病気の無い社会を築く大医を目指す決意を披瀝しました。1883年卒業して衛生局に勤めた先生は、丁度同年発足した大日本私立衛生会の審事委員に始まり、同会の、伝染病研究所の設立と運営、副会頭、会頭を歴任し、逝去の年まで終始一貫、会務を統率し最大の使命を果たしました。今回は大日本私立衛生会雑誌と記念室保管資料を基に、同会との深い関わりを概観しましょう。

### 何故に私立？ 大日本私立衛生会の起り

先生が東京医学校入学当時の校長であり、内務省就職当時の衛生局長でもあった恩人の一人長与専齋は、人民の側に立つて懇ろに「人生の最大の幸福は健康、最大の苦は病気」との理義を諭し官民の融和を語ることに必要と考え、同志と諮って1883年2月、民間組織の大日本私立衛生会（写真1）を創設しました。それというのも、猛威を奮うコレラの予防に政府が幾ら厳しく対処しても、人民はそれを忌み嫌って隠すばかり。そればかりか、官民の心情は離反し予防どころか衛生すべてを忌み厭うのを知り、人民を表から攻めても無効の骨折りと考えたからでした。医学生北里がかの医道論の後段で、当時の官吏や医家の姿勢を痛烈に批判し「心ありてこの民を誘導せば……国は真に人民によりて起すに非ざれば……」と嘆いたのは、この数年前の事でした。

### 大日本私立衛生会当初から大活躍

この会の目的は、国民の健康を保持・増進する方法を討議講明し、衛生知識を普及し衛生施設を翼賛することでした。初代会頭は日本赤十字社の基盤を築いた佐野常民伯爵、副会頭は長与専齋でした。先生は組織確立と同時に、医学科担当の審事委員に任命されました。他に公衆衛生、私己衛生、学校衛生、軍陣衛生、海上衛生、因獄衛生、薬学、化学、嬰兒保育、疫癘（伝染病）、統計、法律、土木、気象、救済、のちに精神衛生、工業、経済、獣疫の各料があり、夫々専門の審事委員を配置しました。毎月末土曜日に常（例）会、隔月に衛生講話会、年一回総会（写真2）を催し、演説や講話によって衛生思想の鼓吹に努めた結果、社会から歓迎されて大いに実を挙げました。当初の会員数は2266名、翌年には5269名に増えました。先生は医学士の学位を得た翌月の11月24日、明



写真2 大日本私立衛生会の第4回総会プログラム

当時の年次総会の様子が覗える。総会、常会、講演会は京橋区木挽町（現歌舞伎座裏・銀座3丁目）の福沢諭吉肝入りの明治会堂（1884年東京厚生館と改名）で行なわれた。このピンク色の紙片は、先生がベルリンの書店で購入した蔵書「リーベルマイスター著 伝染病講義」1885年版に挟まれていた。

治会堂で「青蠅は病毒伝染の一媒介者」と題して初演、翌84年3月29日にはベルツの講演を訳し代読しました。ちなみに同年1月26日には福沢諭吉客員が「衛生法実施上の注意」と題し演説しました。先生は翌85年4月25日に「運動論」、留学間際の10月31日には「長崎県コレラ病因」を講演、また、帰国翌月の「伝染病研究所設立の必要性」から1916年「コレラ研究の回顧」まで約54題を講演して、機関誌「大日本私立衛生会雑誌」(写真3)に載せました。その大部分が「北里柴三郎論説集」に収録されています。

**ドイツ留学中も深い関わり**

留学に際し先生は会から衛生制度調査の委嘱を受け、また、当時の会頭山田顕義伯爵の要請で1890年第10回万国医学会へ、翌年は第7回万国衛生・統計会議へ会を代表して参加し有益な情報を寄せました。先生が2度目の留学延長に困難を極めた折、長与副会頭は山田会頭に諮り、宮内大臣土方久元から恩賜を請願することになりました。その結果、帰朝の上は国民の結核患者を治療せよとの恩命の下、金10000円が下賜され留学再延長が決まりました。記念室には先生に宛てた山田会頭からの通達、経緯を詳述した長与書簡(史料XVI-5-1)などが保管されています。

後年、先生は副会頭として、病床に在った長与会頭の代役を勤め、さらに次期土方会頭を14年間に亘り補佐しました。

**大日本私立衛生会の伝染病研究所**

1892年5月28日帰国した先生は、翌月の大日本私立衛生会例会で伝染病研究所設立の必要性を世に訴えます。

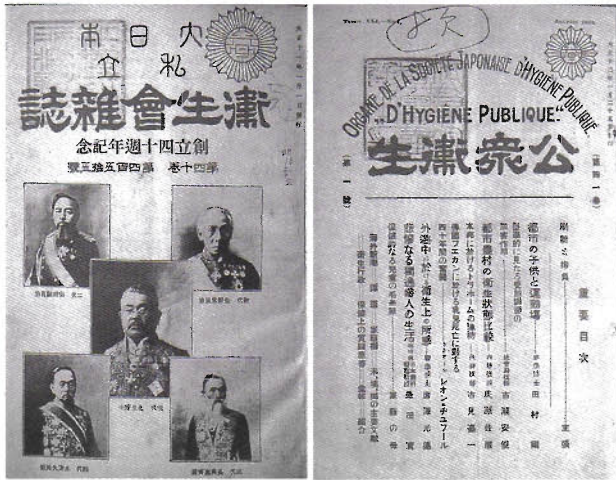


写真3 機関誌「大日本私立衛生会雑誌」から「公衆衛生」へ

月刊の大日本私立衛生会雑誌は1883(明治16)年12月25日創刊。北里会頭時代になって1922(大正11)年1月の創立40周年記念455号に40巻と巻数を付け、翌年1月から同誌を念願の「公衆衛生」と改名し、41巻1号として継続した。

創立40周年記念号発刊に際し、「この種の世界3大雑誌、英国の"Public Health"(公衆衛生)は36年、独国の"offentliche Gesundheitspflege"(公衆衛生)は8年、米国の"American Journal of Public Health"(米国公衆衛生雑誌)は13年を経たのみ。わが『大日本私立衛生会雑誌』の40年の光輝ある歴史は、世界に誇るに足る」と述べた。

「公衆衛生」に仏語が付されているのは、第1次世界大戦後の余波か北里柴三郎記念室では大日本私立衛生会雑誌全号(日本公衆衛生協会 2002年)のCD-ROM版を所蔵

**衛生事務講習所**

1895年この会に衛生行政実務者養成の3カ月コースを設け、同年12月29日、先生は1回生39名に終了証書を授与し訓示を与えました。この講習所は1922年までに22回開講し、約1000人を世に送り出しました。先生逝去の年の春には、31回生を送り出しました。先生はこれも学術の応用と説いて、学術的素養を求めました。

**北里先生亡き後は日本衛生会**

先生逝去後は会頭不在のまま、新たに財団法人日本衛生会の設立を諮り、同年12月26日認可された時点で

社団法人大日本私立衛生会は解散、先生とともに歩んだ48年間の歴史は閉幕しました。

**むすび**

北里先生は伝染病研究所の開所に当たり「凡そ識は俗間に普ねからざればその功德大ならず 学者の識益々高尚なるも俗間に距ること愈々遠きときは何の用をか為さん 殊に人生須知(是非とも知るべき)の医治衛生の事に於てをや 而して学術と生活との密接を媒介するは実に真正なる学者の任なり」との持論を開示し、学術新作上と公衆衛生上の知識を社会に普及させることが急務と諭しました。先生が率いる大日本私立衛生会は、この重要な使命を担う集団でした。

表 大日本私立衛生会の歴代会頭・副会頭

年代	会頭	副会頭
1883(明16)~1887	佐野常民	長与専齋
1888(明21)~1892	山田顕義	長与専齋
1893(明26)~1900	土方久元	長与専齋
1901(明34)~1902	長与専齋*	北里柴三郎
1903(明36)~1917	土方久元	北里柴三郎
1918(大07)~1931	北里柴三郎	窪田静太郎** 小橋一太 金杉英五郎

\* 1901年、多病のため衛生局長を退官後、大日本私立衛生会会頭に当選したが、任期中も病床に在ったので北里副会頭が代行した。翌年9月没後は土方伯爵が再び会頭に就任して、本会創設者長与専齋を第3代会頭とした(写真3左)

\*\*元衛生局長、1923年行政裁判所長官に栄転後、元衛生局長小橋一太が引き継いだ。小橋は1929年文部大臣に栄転、金杉英五郎理事長が代行した

注

- 1 本誌25号4頁(2000)
- 2 北里柴三郎伝115頁、54頁 北里研究所(1932)
- 3 長与専齋 松香私志下 38頁長与稱吉(1902)
- 4 大日本私立衛生会雑誌1号1頁(1883)
- 5 大日本私立衛生会雑誌110号501頁(1892)
- 6 伝染病研究所一覽(明治28)1頁 伝染病研究所(1895)